

「卯と兎」

新しい年、令和5年になった。西暦で言うと2023年である。東京ではここ数日、晴天が続き、気温も平年並みで、おだやかな新年を迎えた。3年ぶりにコロナ禍による規制もなく、初詣などに出かけた人も多いのではと思う。ところで、今年はいさぎ年。うさぎを漢字で書けば「兎」なのだが、干支（えと）では「卯」と書く。この漢字にはどんな意味があるのだろうか、調べてみた。

まず、干支とは十干と十二支を組み合わせたもの。十干は甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸の10個からなり、十二支は子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥の12個からなる。10個サイクルと12個サイクルの組み合わせなので、その最小公倍数である60個の種類ができる。今年の干支は、うさぎと言ってしまいがちだが、正確には「癸卯（みずのと・う）」である。この干支は「癸卯」は最初の「甲子」から数えて40番目にあたる。とくに十二支の方は動物を連想してしまうが、植物を含めた生命消長の循環過程を示しているといわれる。

今年の「卯」の字には、草木が地面をおおうようになった状態を表しているとされる。これからの成長を感じさせる意味があり、新しいことに挑戦するのに最適な年だそうだ。うさぎは跳躍する姿からも「飛躍」、「向上」を連想させる。また、うさぎは穏やかで温厚な性質であることから、「家内安全」や穏やかな一年になることが期待される。もちろん、何も根拠はないのだが、そう思えば努力すれば叶うかもしれない。ちなみに、景気状況を表す株の相場格言では「卯年は跳ねる」といわれている。実際、昭和20年以降、過去6回の卯年相場を見てみると、大きく跳ね上がった年もあり、日経平均で4勝2敗と比較的上昇する年が多い。

千寿青葉中学校では、今年、創立20周年記念式典を予定している。それに関する記念行事も行われる。学校にとっても一つの節目として、次への飛躍の一年でありたい。

1月5日 校長 鈴木 幸雄

◆問題 四角形ABCDは1辺が20cmの正方形です。BC上に点Eをとり、図のように結んだところ、三角形BEFの面積が 60 cm^2 になりました。BEは何cmですか。

